

東白川村 美しい村づくり 委員会

第67回

○場 所：五加交流サロンほほえみ

○時 期：令和4年11月25日 19:00~21:00

○参加者：委員1名 一般9名 行政担当5名

【今年度委員会の目的】

①住民参加の場 ②交流・対話の場 ③学びの場

「持続可能な美しい村」を実現するため、「住民と行政で共に学ぶ」をテーマに、「学びの場」と「対話の場」を設け活動しています。

第1 村長あいさつ

本日は、この美しい村づくり委員会のこれから、来年度の活動について話し合しましょう。美しい村づくり委員会が始まり6年が経とうとしていますが、これまで様々な活動を行ってきました。社会環境が変化し続ける中、委員会の状況も変化しています。協働のあり方について、この委員会の活動について、皆様のご意見やアイデアをいただきたいです。

〈話し合いを行うにあたっての村長コメント〉

協働とは、住民参加とは、何でしょう。手段が目的にならないよう、目的と手段を確認しましょう。また、コロナ禍を経て、体面交流（リアル）の重要性を再確認しました。まずは、みなさんから東白川村に「残したいモノ・コト」と「新しくおこしたいこと」を伺いたいと思います。

第2 官民協働とは？委員会のふりかえりについて

事務局から委員会のふりかえりと官民協働について説明を行いました。

--説明資料--

官民協働(住民参加)と 美しい村づくり

○前回連合審査(課題) ①景観づくり ②ストーリーづくり

例)景観条例 : 看板統一 ネオン 太陽光パネル(伊那市)

例)観光案内 : 色統一された案内掲示板 (下呂市馬瀬、木曾町)

例)特産品のストーリーづくり・ブランディング : 蕎麦、石工 (高遠町)

○村の課題 ①人口 ②景観維持(茶産業と茶の景観) ③地域コミュニティ

○目的:市民(自主的に地域づくりに関る人)の確保・育成

美しい村を守り、後世に伝えていく ※移住者交流

○委員会活動 当初設定

- ・美しい村ゾーン設定
- ・スポット再編
- ・美化活動
- ・研究・計画・実施
- ・「日本で最も美しい村」連合に関すること
- ・がんばる地域補助金

○官民協働

| | |
|-----|--------------------------------------|
| キー① | (地元村民 地元若者 村出身若者)の参加実現 |
| キー② | ・行政への意見・要望の場(住民参加) ・住民主体の運営・実行(官民協働) |
| キー③ | ・既存の住民活動をサポート ・新しい活動を醸成 |
| キー④ | ・あらゆる団体や行政事業の課題や困りごとを収集し住民に開示 |

○住民参加 例)行政側の意図 参加者の意図

| 事業 | 意図(行政) | 意図(市民) |
|----------------|-----------------------|-----------------------|
| 行政計画案作成 | 市民の意見を反映した行政運営を行う | 自分の考えを行政運営に活かしてほしい |
| ワークショップ | 市民の意見を反映した行政運営を行う | 自分の考えを行政運営に活かしてほしい |
| イベント ボランティア | イベントを円滑に実施する | 自分が関心のあるイベントの運営に参加したい |
| 福祉 ボランティア | 高齢者・障がい者等の困りごと解決を支援する | 自分のスキルを活かして人助けをしたい |
| ゴミ拾い ボランティア | 良好な生活環境が維持される | 自分が住む村をきれいにしたい |

| | | |
|---------------|-----------------|------------------|
| 茶産業 ボランティア | 人手不足を補い産業が維持される | 自分が関心のあることに参加したい |
|---------------|-----------------|------------------|

○「行政の肩代わり」を快諾する人はいない。

→ きっかけは個人的な関心ごと、やりがいと承認欲求が重なるところ

| 個人的なきっかけ | 公益的な結果 |
|-------------|-----------------|
| 健康維持のための散歩 | 村の安全・安心の見守り |
| 子供たちとの交流活性化 | 子どもたちの見守り |
| 園芸が趣味 | 公園・花壇の花々の手入れ |
| 読書が趣味 | 読み聞かせ、図書館ボランティア |

○住民参加の留意すべき事項

| |
|--|
| 十分な情報提供と高い透明性 |
| 十分な対話 |
| 参加者の意見が、参加者からみて納得できる考え方に基づいて計画に反映されること |
| 未来志向の設定 |
| 多様性確保(多数の若者参加) |
| ともに汗をかく |

○型

| |
|-----------------------|
| 要請型(各団体、自治会の代表) |
| 公募と要請の併用(役場職員:プロジェクト) |
| 公募型(既存スタイル) |

第3 話し合い会 ～これからの官民協働の美しい村づくり～

今回で美しい村づくり委員会は67回目を向かえ、6年間、自主参加を大切に交流の場、対話の場、学びの場、やってみる場、にチャレンジしてきました。コロナ禍も含む6年間には、成長、停滞、縮小を経験し、次のフェーズへのつなぎとして、前年度から「学びの場」を6回開催してきました。新しい参加者の方とも楽しく変化することを目指し、これからの住民主体の地域づくりについて、官民協働の活動について話し合いを行いました。

【問い】

○東白川村に「残したいモノ・コト」「新しくおこしたいこと」は何ですか？

〈残したいコト・モノ〉

- ・ 現在ある山林活動
- ・ 村出身の若者が戻る場
- ・ 自然環境や景観
- ・ 地縁団体活動 祭やイベント（郷土歌舞伎）
- ・ 人（キーマンや活動家）
- ・ 食文化

〈新しくおこしたいこと〉

- ・ 住民による山林活動
- ・ 他地域との交流（例）山と海
- ・ 子供が中心となるイベント
- ・ 気軽に集まる場
- ・ 一流（プロ、専門家）との連携
- ・ 歴史や文化を紹介する CATV 番組
- ・ 飲食店
- ・ イベント・祭に委員会が出店や参加
- ・ 情報発信アプリ（ツチノコテクノロジー）
- ・ 送迎バスシステム（高校生通学可能な）
- ・ WIFI がないエリア

〈担当者所感〉

今回の話し合い会の印象は、「情報発信」「既存のイベントや祭、文化への参加やサポート」が浮かび上がってきました。行政による情報発信ではなく、住民（民間）による情報発信活動が、村の再編集活動となり、例えば、活動組織の名前のイメージとして「くらしの編集室」という印象です。地域の掘り起こしとソーシャルキャピタルの醸成につながると感じました。

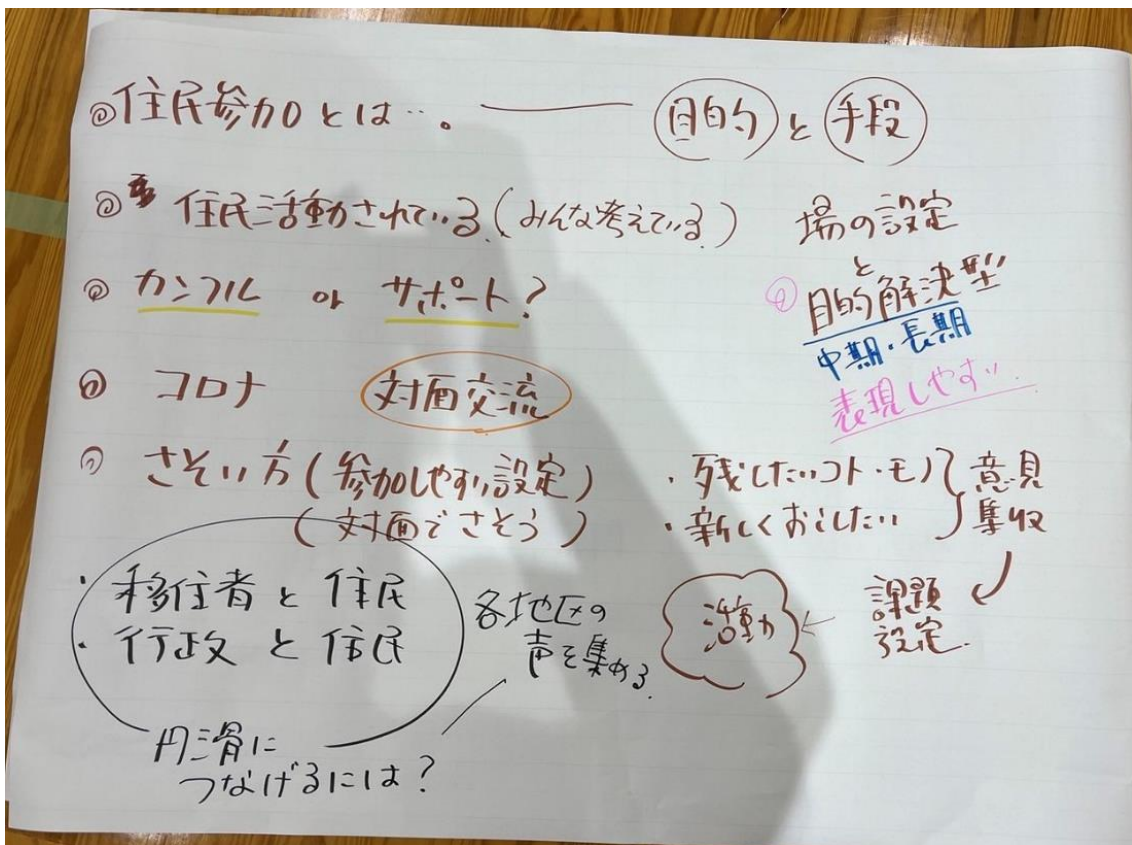
第4 閉会

【次回】 「話し合い会」 テーマ：これからの官民協働の美しい村づくり②

日程：12月20日（火） 19時～21時

場所：五加交流サロンほほえみ

以上



Why 目的 地域が「できる」時に実行する

What 課題 行政課題と住民関心ごとの「なご」 関係の固定化

Where 対象範囲 住民・職員・第三者(若者、専門家、他地域)

How システム 自発的、要請、市民活動側の課題設定

When 実現時間

Who :体制 総合、部門、事務局(民間、行政)

How Much 費用

